

明治42年（1909），和歌山市に生まれ，大阪高等学校を経て，昭和7年（1932）東京帝国大学工学部土木工学科卒業。東京都に入り，土木部道路課勤務。昭和9年内務省都市計画課勤務となる。昭和12年荒川上流改修事務所戸田工場主任となり，戸田ポートコースの新設に従事。昭和14年北支建設総署勤務となり，都市局技術科長，計画科長を歴任，昭和16年内務省に戻り，国土局計画課勤務。昭和19年陸軍技師としてビルマ方面軍司令部付となる。昭和21年復員，戦災復興院土地局工務課勤務。昭和26年首都建設委員会計画第一課長を経て，建設省計画局都市復興課長となり，全国115都市の戦災復興土地区画整理事業の指導・助成につとめ，昭和34年迄の長期間担当課長として復興事業の概成に尽遂した。この指導に当たっては，氏の学者肌の研究心がいかんなく發揮され，特に区画整理の根幹である土地評価の定型化を図るため，路線価評価方式を考案した。この方式は現在においても土地評価の原典となっている。

また，戦災復興事業の概成に伴い，土地区画整理事業の



制定に伴う本来の区画整理事業の振興を図るため，都市改造土地区画整理事業の補助の制度化及び新市街地開発土地区画整理事業の融資制度を確立したことは正に時宜を得たものであったし，その後の事業の拡大発展を導いたのである。

昭和30年日本住宅公団の設立に当たって，公団事業の2本柱の一つとして公団独自の先買区画整理を企画し，事業の制度化を図ったことは，公団の設立意義を高め，当時の大都市の人口急増に対処して，その効果は多大なものがあった。

昭和34年，首都高速道路公団が設立されるや，その技術部長となり，東京オリンピックを目前にしての首都高速道路の建設に当たった。

昭和37年請われて日本技術開発株式会社に入社，常務取締役として当時少なかった都市計画コンサルタントとして活躍した。

昭和48年8月東京都豊島区西巣鴨1-20-2において現職のまま永眠，享年64才。